【資料４】

中山間地域ふるさと事業について

埼玉県農林部

農業ビジネス支援課

中山間地域ふるさと事業の背景

現　状

〇中山間地域の高齢化の進行

高齢化率（６５歳以上人口割合）（令和２年）　　中山間地域：３８．８％／県全体：２６．３％

〇人口減少の進行

人口増減率（平成２７年→令和２年）　　中山間地域：△２．８％／県全体：＋１．１％

（令和２年国勢調査）

問　題

〇高齢化、人口減少により地域コミュニティの維持が困難

〇営農の継続困難、伝統文化の衰退、耕作放棄地の増加等が懸念

これらの中山間地域が抱える問題へ対応するために

「中山間地域ふるさと事業」を実施

埼玉県では、地域振興立法３法指定地域及び農林統計上の中間農業地域・山間農業地域を「中山間地域」としている。（対象：１７市町村４８地域）

中山間地域ふるさと事業とは

「ふるさと水と土基金」事業
（中山間ふるさと・水と土保全対策事業）

◆中山間地域が有する多面的機能の発揮と、地域住民活動の活性化を目的とする。

◆中山間ふるさと・水と土保全対策事業実施要綱（農林水産省）に基づき、都道府県に基金を設置。

「棚田基金」事業
（中山間ふるさと・水と土保全推進事業）

◆棚田地域の農地等の保全・利活用に係る活動の活性化を目的とする。

◆中山間ふるさと・水と土保全推進事業実施要綱（農林水産省）に基づき、都道府県に基金を設置。

◆事業主体は都道府県。
◆事業対象地域は特定農山村法、山村振興法、過疎法指定地域及び農林統計上の中間農業地域・山間農業地域（１７市町村４８地域）
◆埼玉県の当初の基金積立額は６億９千万円
◆運用益と基金を取り崩して事業費としている。令和７年度当初予算額は
　１７，２３９千円（２事業の合計）

事業の構成

1　調査研究事業

令和７年度予算額：　12,371千円

・地域住民活動の活性化に係るワークショップ等の実施
・大学生等の外部の力を活用して集落の活性化を図る取組を実施
・集落営農を確立するための新たな生産技術や鳥獣害対策の調査研究

2　研修事業

令和７年度予算額：　300千円

・地域活性化に必要なリーダーとなる人材を育成するための研修会の実施

3　啓発推進事業

令和７年度予算額：　1,263千円

・中山間地域の持つ多面的機能の理解増進についての普及・啓発活動の実施

（令和７年度予算額 :4,500千円）

コンサルタント等による支援①

地域住民の話し合いや地域による都市農村交流イベントの実施により、農林業・農山村の多面的機能の良好な発揮を促進する。

長瀞町（R6～R7）　株式会社第一プログレス

・「花の里」「野土山」「ふるさと農園」などの観光名所等、地域資源を再発掘するとともに、長瀞町ならではの地域資源を生かした地域活性化の具体的な方策の実施・検証を行う。

・委託事業終了後も自走していける住民活動を目指す。

▲野土山を散策し、
活用方法を検討

▲ワークショップの様子

（令和７年度予算額 :4,500千円）

コンサルタント等による支援②

地域住民の話し合いや地域による都市農村交流イベントの実施により、農林業・農山村の多面的機能の良好な発揮を促進する。

秩父地域（R6～R7）埼玉県産いちごを活用した地域活性化

- 本県中山間の有力な地域資源である県産いちごを活用し、地域活動の活性化、産地への誘客促進などを図り、中山間地域の活性化を図る。

- いちごに関心のある学生や地域住民等の参加者などが参加するワークショップ「埼玉いちご大学」を通じて、地域と連携したいちご商品の開発、商品PR等を実施する。

R6実施 第2回ワークショップの様子

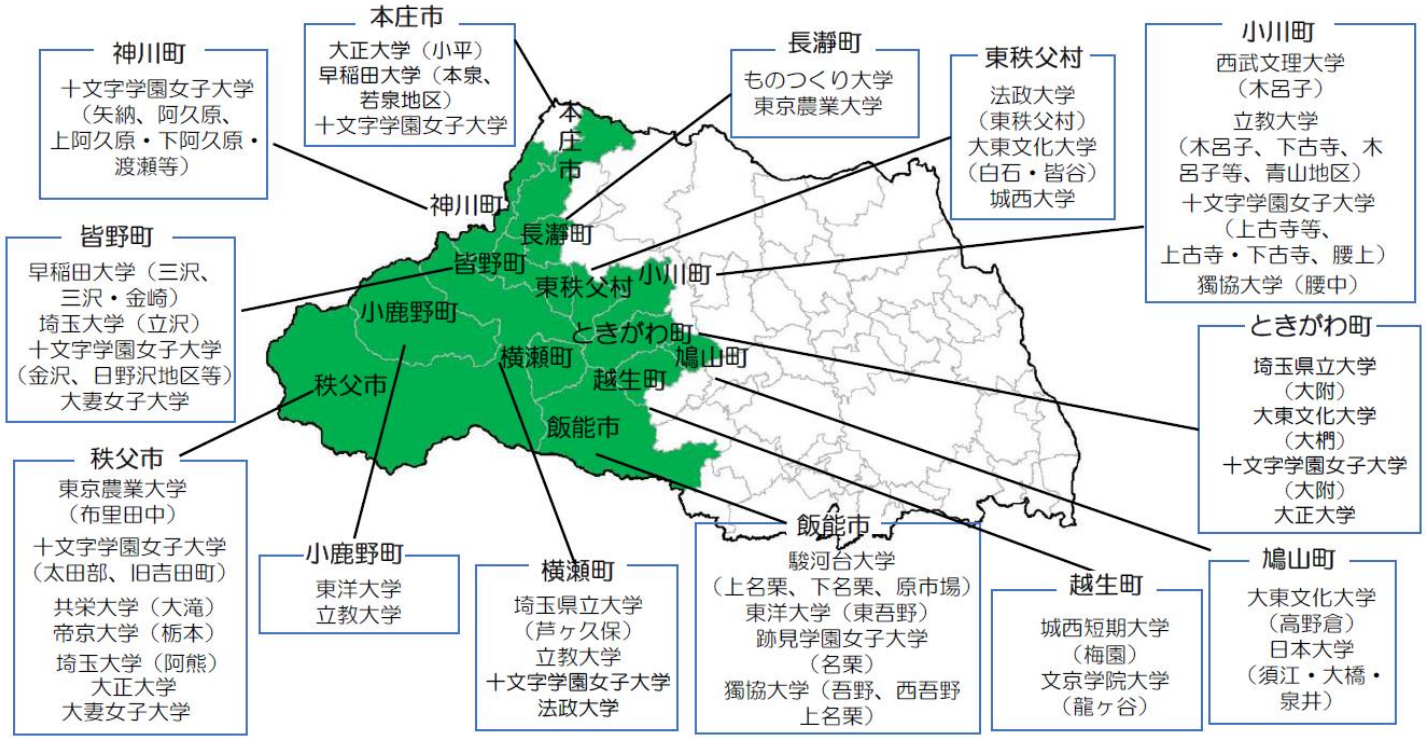
R6実施　ワークショップポスター

ふるさと支援隊による支援

大学に委託して実施
１地区あたり50万円（継続は40万円）を上限とする。

大学生等の持つ新しい視点や行動力、専門技術・知識など「外からの力」を活用することによって、集落の活性化を図る。
平成22年度から延べ56支援隊が活動している。

（令和７年度予算額：4,700千円）



令和6年度の実績
計8支援隊が活動
（内訳）
継続　6支援隊
新規　2支援隊

【R6活動テーマ例】
- 東秩父村の観光・地域資源の再発見と発信（城西大学・東秩父村）
- 飯能の里山資源を活用したアウトドア・スポーツ・ツーリズムへの挑戦（駿河台大学）
- 若者Z世代が好む柑橘製品の開発（十文字学園女子大学・ときがわ町）

（令和７年度予算額：９２０千円）

県の研究機関による支援

１　概　要

　中山間地域において、地域住民活動の活性化に資することを目的に、集落営農を確立するための調査研究を県研究機関が実施する。

　県農業技術研究センターでは「鳥獣害対策」、県茶業研究所では「お茶の生産技術」に関する研究を実施している。

２　令和７年度実施計画

(1)野生獣の農作物被害防止総合対策の推進

- サルの雌成獣に発信器を装着し、行動域・移動ルート等を調査（サル群の行動把握と地図化）
- 捕獲檻に対する野生動物の行動を解析し、効率的な捕獲地点の選定と捕獲実証を実施
- 被害防止対策の検証（侵入防止柵の効果確認）　など

(2) お茶の生産技術の確立（秩父地域における茶の栽培加工技術の向上）

- 中山間茶園に適した施肥、整枝方法等を検証
- 製茶技術指導等により製茶技術の向上を図り、生産者、流通業者、消費者を交えた求評会を開催
- 新茶種や茶加工品素材等の生産基盤の検討及び商品化利用を検証　など

（令和7年度予算額：300千円）

ふるさとリーダー研修

中山間地域の活性化の推進及び助言等を行う人材を育成する。

（令和６年度実績）

第１回：都市農山村交流実践研修会

・開催日：令和６年８月２９日（木）　・参加人数：45名（農業者、地域おこし協力隊等）
・テーマ：「有機農業を通じた地域活性化」～作る人も食べる人も心が豊かになる小川町の暮らし～
・講　師：①小川町移住サポートセンター　八田さと子氏
②霜里農場　金子宗郎氏
③小川町地域おこし協力隊　泉地春香氏
・内　容：有機農業を通じた地域資源の活用や関係人口創出などの方法に係る講演、地域活性化のための方策について考えを深めるための情報交流会を開催。

第２回：都市農山村交流実践研修会

・開催日：令和６年１１月２７日(水)　・参加人数：12名（大学、行政関係者等）
・テーマ：「ゆずでつなぐ地域の輪～クラフトジュース誕生秘話～」
・講　師：ときがわブルワリー　小堀　利郎氏
・内　容：地域産原料の加工に特化した飲料製造を通じて、地域の農家の所得向上、特産品の開発等を多く手掛ける講師による地域資源の活用や仲間づくりの手法などに関する講演及び意見交換会を開催。

中山間地域における取組の広報

中山間地域の持つ多面的機能の理解増進についての普及・啓発活動を実施する。（令和7年度予算額：1,263千円）

令和７年度中山間ふるさと啓発推進事業（業務委託：秩父観光農林業協会）

中山間地域の活性化に向け、地域の農業者や農業関連団体との協働により、地域の特産農産物や農業の取組、多面的機能に関する広報活動などを行う予定。

（１）　いちご（令和7年4月20日実施）
　　対象者数：秩父鉄道SL乗客313名

（２）　ブルーベリー（令和7年6月中旬を予定）
　　対象者数：秩父鉄道SL乗客

（３）　シャインマスカット（令和7年9月を予定）
　　対象者数：秩父鉄道SL乗客

ブルーベリーPRの様子

その他
・ポータルサイト「グリーン・ツーリズム埼玉」での中山間地域の観光農園やイベント等の情報発信
・イベントでの啓発資料配布・パネル展示
・情報誌の配布

中山間地域ふるさと事業

中山間ふるさと・水と土保全推進事業

（棚田基金）

棚田基金の構成

１　保全ネットワーク推進事業

・保全活動への都市住民等の参加推進を図るために行う普及・啓発及び情報の収集・提供

２　保全活動推進事業

・保全活動を行おうとする住民組織の活動計画等の作成

３　保全活動支援事業

・住民組織が行う保全活動に要した経費に助成

※地域振興関連施策（中山間地域等直接支払等）と連携

棚田基金を活用した取組（令和７年度予算額：４１９千円）

棚田地域に関する情報を発信し、都市住民も交えた地域住民活動を推進。

＜令和６年度の活動＞

西武鉄道や横瀬町観光協会と連携し、横瀬町でのハイキングイベントやあしがくぼ氷柱イベントにおいて、寺坂棚田で生産された棚田米や棚田めぐりガイドを配布し、都市住民に向け情報発信を行った。

11/19　横瀬町（札所６番ト雲寺）
（横瀬町ウオーキングイベント）

イベントには、多くの観光客が訪れ、「寺坂棚田にも寄りたいと思う。」「棚田で作ったお米がもらえるなんて嬉しい」などの声が聞かれた。

1/18横瀬町（道の駅あしがくぼ）
（あしがくぼ氷柱イベント）